

## 小平奈緒選手と李相花選手

東京オリンピック・パラリンピックの開催が7、8月に迫り、マスコミ報道も日々目立つようになりました。今回は夏季大会ですが、今から2年前の2018年2月に韓国の平昌で冬季オリンピックが開催されたのは記憶に新しいところです。この大会のスピードスケート女子500mで、日本の小平奈緒選手が見事に金メダルに輝き、大きなニュースになりました。実は小平選手には、強力なライバルの存在がありました。韓国の李相花(イ・サンファ)選手でした。李選手は過去2回のオリンピックの同種目のチャンピオンであり、地元韓国の大会で3連覇を狙っていました。李選手は過去の大会で圧倒的な強さであった事や今回は地元開催である事からの大きなプレッシャーと戦っていました。他人には計り知れない大きな不安や圧力と戦っていたとの事です。

決戦の日は2月18日にやってきました。2人が同時にスタートするこの種目は、最終組で李選手、その前に小平選手がスタートしました。実は、小平選手もこの大会は本命の本命と周囲から騒がれ、プレッシャーと戦っていました。実力を存分に発揮した小平選手は、オリンピック新記録で駆け抜け、レース後は、拍手や歓声がしばらく鳴り止みませんでした。その時、小平選手は、観客席に向かって人差し指を口元に近づけ、「(李選手が集中できないから)静かにして」と自身への賞賛の歓声を制止するポーズを示しました。その様子はテレビ画面でも分かりました。

小平選手の後には、地元韓国の李選手のスタート順であり、彼女は地元の期待を一身に背負ってスタートラインに立つ李選手のことに配慮したのでした。李選手は惜しくも2位で、小平選手の記録にわずかにとどきませんでした。その後すぐに、涙が溢れる李選手に小平選手が近づきました。そして、「私はずっとあなたを尊敬しているよ。」と語りかけ、二人そろってのウィニングランが実現し、世界中の感動を誘い、大きな話題となりました。

当時は、一部で二人の不仲説が飛び交いましたが、実は以前からの親友で、互いに切磋琢磨してきたのだそうです。ある時、一緒に写真を撮りながら、小平選手が「次のオリンピックは私が勝って、あなたが2位ね。」と語りかけると李選手は「それならあなたが勝って、私は2位でいい。」と笑って話せるほどの良き友人だったようですし、他国で行われた競技の後、帰りを急ぐ小平選手に、李選手がタクシーを手配し、空港まで見送った事もあったそうです。2018年は、互いの強さや長所を認め合い、友として、最大のライバルとしてのオリンピックだったそうです。

自分自身を極限まで追い込み、高みを目指すアスリートは、互いの苦しみや気持ちがよく理解できるのかもしれませんがね。互いに敬意を払いつつ、絶対に負けないという強い気持ちで戦うものだけにしか分からない究極の人間関係なのかもしれません。

私達は、そこまでは到底たどり着くことはできなくても、自分自身を磨き上げ、物事に臨むことによって、相手の気持ちが少し理解できる事はありますよね。自分や自分達が負けてしまった人やチームを応援したり、自分とかかわった人の動向が気になったり、一緒に励まし合って入試に向き合った友達と最後まで声をかけ合ったり・・・。人間が生きていく上で大切な事は、いがみ合ったり、苦痛を与えたりすることではなく、励ましあったり、認め合ったりする事で互いに豊かな人生を歩んでいけるのだと思います。皆さんはどう感じますか。